



発行 東区人権尊重啓発連絡会議 事務局: 東区総務部 生涯学習推進課 (TEL645-1144) (FAX645-1042) 題字 池見 裕道氏 挿絵 田村真知子氏

人権セミナー

ドキュメンタリー映画上映会 ぼけますから、よろしくお願いします。

令和6年7月25日、東区第1回人権セミナーが東市民センターで開催されました。

この映画は、ドキュメンタリー作家の信友直子監督が、広島県呉市を舞台にアルツハイマー型認知症を患った母と、彼女を献身的に支える父の老々介護の日々を描いたものです。

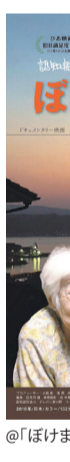
上映会には10代から80代までの多くの方が参加し、リアルに描かれた老夫婦の日常生活に、涙や笑いを交えながら鑑賞されていました。

参加者の感想

● 近い将来両親を迎えるであろうことを目の当たりにしたような気がしました。(30代)

● 老いることや両親のことについて考えるきっかけになりました。(40代)

● 老いることを否定的に考えていたが、最後まで自分らしく生きるために何が必要かをもう一度よく考えてみたいと思いました。(70代)



『ぼけますから、よろしくお願いします。』製作・配給委員会

● 以前、認知症の親の介護をしましたが、その時この映画を見ていたらもつと違っていたかもしれないと思いました。(50代)

● 認知症は決して他人事ではなく、家族の絆や支えあうことの大切さが分かりました。(80代)

● 実家の両親とまるで同じで、泣けてしまいました。(60代)

● 上映後には、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心して暮らしていることが出来るように、健康や福祉、介護などに関する相談を受けたり、アドバイスを行う地域包括支援センター(いきいきセンター)の紹介などもありました。

● 母の介護をしています。母の人格を尊重することを忘れていたような気がします。母への接し方を考え直そうと思いました。(60代)

● これからの生き方を改めて考えました。人ごとではありません。(70代)

東区人権を考えるつどい(令和6年9月26日)

「がん」で考える「いのち」

「正しく知って「健幸」に」

がんを正しく知り、がんと向き合った患者の体験からのちや生きていることについて考えました。

● がんを正しく知り、がんに向き合った患者の体験からのちや生きていることについて考えました。

● 二人に一人ががんになる時代、右肩上がりが増えてきている

● 大切なものとは

金城舞さん(がん治療認定医)

20歳を超えると乳がん、子宮頸がんが急増します。福岡県は、がん検診受診率が低く死亡率が高いです。がんは3G(がんばり屋、がまん強い、がんこの人がなりやすい。予防として、生活習慣を整えること、栄養をとる、リラックスすることが大切です。

河野梨香さん(看護師)

人を助けたいと思いつつ、看護師になりました。看護師になり、いろいろなことが分かりました。手術後の化学療法で髪が抜け、吐き気などきつい思いをしました。子どもはまだ1歳。



左から河野さん、金城さん、山本さん

看護学校に通っているときにがんになりました。痛み、心と体のつらさで生きているのがつらいと初めて思いました。そんな時、看護師さんが黙って背中をさすってくれました。手当ての意味が心から分かりました。さ

私の生きる力

● 病気が教えてくれたこと

● 病気が教えてくれたこと

参加者の声

● がん予防のための話を聞いて生活習慣の改善を出来ることからやってみようと思いました。

● 二人の経験談はがんでなくても今を生きている人すべての方に、自分と向き合うことの大切さ、支えあうことの大切さを伝えて下さったと思います。

● 素晴らしいお話に感動しました。生きるとは何か考えさせられました。病が人生を深くすると思えました。

● 素晴らしいお話に感動しました。生きるとは何か考えさせられました。病が人生を深くすると思えました。

活動団体紹介

東区ねんりんクラブ連合会

会長 藤原 俊廣

令和4年11月、両国国技館に天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ「全国老人クラブ連合会・創立六十周年記念大会」が開催されました。

● 老人クラブでは、日頃から支援を必要とする高齢者への声かけ、安否確認の見守り、健康づくり、介護予防活動など、高齢者の社会参加による生活支援・介護予防など地域支え合い活動に取り組んできました。

● これらの取り組みを組織的に推進しようと呼びかけているのが「健康」「友愛」「奉仕」の全国三大運動です。

● 東区ねんりんクラブ連合会は、以上を活動の仲間と共に日々実施しています。

● 東区ねんりんクラブ連合会は、①「健康」：各単位クラブ・各校区連合会で日頃の練習活動と校区大会を通して、校区選出者が参集しての東区スポーツ大会を毎年開催しています。特にグラウンドゴルフは参加者も多く、往時のゲートボールを凌ぐ最多人気のスポーツです。その他、ソフトダーツ、車椅子でも楽しめるラダーゲッター等の大会を東体育館で開催しており、毎回多数の会員各位に参加いただいています。

● また、区のリーダー研修会や各種会議の折り、あるいは校区独自の勉強会等で医療機関・市保健医療局等の支援を頂き、会員の健康意識の啓発を図っています。

● 「友愛」：各単位クラブ毎に友愛訪問事業活動を実施しており、ひとり暮らし・ねたきり・その他の区分の元、年度初めに訪問員・対象者・訪問予定数を計画し、年度末に実施報告を行っています。

● その他、市提供の福祉バスを利用している単位のクラブ/校区連合会毎のバスハイク(或いは「演芸大会」カラオケ大会等)も毎年実施しており、毎回盛況です。

● 「奉仕」：敬老の日(当時9月15日)に感謝する「社会奉仕の日」を9月20日に設定して活動する事を、昭和61年度に全国老人クラブ連合会で決定しました。

● 以降、可能な限り「老人週間」(9月15日から一週間)内で地域の美化活動/環境に優しい活動を実施し、全国で報告する事としています。

● 東区ねんりんクラブ連合会は、以上を活動の仲間と共に日々実施しています。

● 内閣府の国際比較調査で、「家族以外の親しい友人がいない60歳以上」の割合が発表されています。スウェーデン10%、ドイツ13%、米国14%、日本31%という数値は、日本の高齢者の孤立状況を示しています。

● 我々老人クラブ会員は、数多くの皆様の入会をお待ちしています。ぜひ仲間になりましょう!

● 我々老人クラブ会員は、数多くの皆様の入会をお待ちしています。ぜひ仲間になりましょう!



第32回東区高齢者グラウンド・ゴルフ大会

第53回人権を尊重する市民の集い

LGBTQ+講演会二〇二四

「今私たちが一人ひとりにできること」

株式会社アカルク 代表取締役 堀川 歩さん



福岡市では毎年12月4日から10日までの一週間に「福岡市人権尊重週間」と定め、様々な啓発活動を行っています。

勝馬小学校・志賀島小学校PTA人権教育研修

「障がい」を「個性」に 「個性」を「強み」へ

明るく・楽しく・ポジティブに

日本一小さい営業マン 山崎 海斗さん

まだ残暑が厳しい9月3日、福岡市立勝馬小学校体育館にて、勝馬小学校と志賀島小学校合同のPTA人権教育研修が開催されました。両校は児童数が少ないため(令和6年9月現在合計47人)、毎年合同でPTA人権教育研修を実施しています。

この日は午後から保護者向けに人権教育の公開授業が行われ、懇談会に続きPTA人権教育講演会が行われました。

講師は、自らを「日本一小さい営業マン」と称する山崎海斗さんで、生まれてから今日までに経験されてきたつらい出来事や嬉しかったことなど

その一環として令和6年12月5日に東市民センターにおいて、第53回福岡市人権を尊重する市民の集いが開催され、株式会社アカルク代表取締役の堀川歩さんが講演されました。

堀川さんは女性として生まれましたが、現在は男性として戸籍を変更してあります。高校卒業後に地雷撤去を行うため陸上自衛隊に入隊し、任期満了後は自分の目で世界の現状を確かめる為に世界一周の旅に出发。帰国後はLGBTQ+の方の総合サポート事業を個人で立ち上げ、その後令和2年に株式会社アカルクを設立し、多様な人が働きやすい職場環境を整えています。

を、ありのままにお話しされました。

山崎さんは、先天性多発性関節拘縮症という難病を患っておりますが、オフィス機器の会社の営業マンとして活躍する傍らで、自分の病気のことや、人権の大切さを皆さんに知ってもらいたいとの思いから講演活動をされています。

山崎さんのモットーは「障がいは唯一無二の個性、一番の武器」どうせなら明るく楽しくポジティブに、将来の夢はパラバドミントン選手としてパラリンピックに出場することだそうです。

講演会で話される山崎さんの表情



境作りを専門に、研修や講演活動を行っております。

講演会では初めにLGBTQ+という言葉の意味や、同性婚訴訟の現状、法律や社会制度の変遷などについて基礎的な説明がありました。続いて当事者が困りやすいハード面やソフト面の課題や配慮についてお話しされ、その中で思春期のつらい出来事や自分を変えるきっかけとなった高校時代の先輩の言葉などが紹介されました。

最後に私たち一人ひとりにできることとして、LGBTQ+について正しい知識を持ち、当事者の方が身近にいるかもしれないことを頭の片隅に置き、普段の発言や当事者と向きあう時に傷付けないような言葉を選ぶことをあげられ、相手を一人の個性として尊重する姿勢を大事にしてほしいと結ばれました。

参加者からは「話が分かりやすく理解が深まった。」「まず知ること。はとても柔らかく、明るい笑顔が溢れていました。」

参加された保護者からは、「障がいを個性と捉え強みにできる前向きさに感動した」「子ども達が個性を伸ばし活躍していけるようサポートしていきたい」「障がいがあっても夢があれば叶えられることがわかった」と

自分事として考えることが大切だと思った。「当事者の知人と接する時の参考になった。」「自分らしく生きることは大切だと思った。」などの感想をいただきました。

用語の解説

- L: レズビアン (女性同性愛者)
- G: ゲイ (男性同性愛者)
- B: バイセクシュアル (両性愛者)
- T: トランスジェンダー (出生時の性別と心の性が不一致な人)
- Q: クイア・クエスチョニング (性の多様性を包括的に表現。自身の性自認や性的指向が定まっていない、意図的に定めていない人)
- +: プラス (多様な性)

んな逆境にも負けない強さを教えていけるような親になりたい」「自他ともに認め合える雰囲気づくりに努めたい」「出会いや励ましの言葉の大切さを学んだ」「人はみんな助け合って生きていくもの」など、ポジティブな感想が多く寄せられました。

今回の研修会は、運動会と開催時期が重なってしまい、PTA間の打ち合わせの時間があまりとれず苦労したそうです。

その一方で、多くの保護者に参加してもらえ、講演内容も良く参加者の満足度が高かったことや、研修を通してPTA役員と保護者との親睦が深まったこと、先生方との協力関係がより深まったことなどたくさん

人権尊重週間 東区の入選作品

ポスター



小学2年生



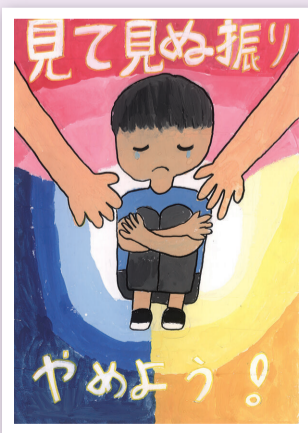
小学3年生



小学3年生



小学4年生



小学5年生

人権標語

「その言葉 自分に向けて いえますか」

小学6年生